

JENESYS2019 ASEAN 招へい第 23 陣の記録

日 ASEAN 学生会議

対象国：ASEAN 10 か国及び東ティモール

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2019」の一環として、ASEAN 加盟 10 か国（ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム）及び東ティモールから各国大学生 129 名が、2020 年 2 月 9 日～2 月 18 日の 8 泊 9 日の日程で来日し、「日 ASEAN 学生会議*」に参加しました。

日本人学生（9 名）を含む参加国の大学生らは、「アジア諸国と日本の青年ができること」を共通テーマに、日本とアジア諸国に共通する 5 つの課題別によるグループに分かれ、グループ A は「観光公害と持続可能な観光開発」、グループ B は「外国人労働者」、グループ C は「質の高い教育」、グループ D は「食品ロス」、グループ E は「防災意識」をテーマとしてプログラムを実施しました。グループ A・C は東京都・京都府、グループ B は東京都・愛知県、グループ D は東京都・大阪府、グループ E は東京都・宮城県を訪問し、各地でそれぞれの課題に関連した講義の聴講、関連施設の視察、ワークショップなどを行い、課題に対する解決策を考えました。また、学生間の相互理解を深め、課題解決に向けた協働可能なネットワークを形成し、その実現を目指すという方向性を共有しました。さらに、地方訪問時には、伝統文化等の視察・体験を行い、様々な日本の魅力を直接肌で感じる事が出来ました。

一行は、プログラム中、各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行い、帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）についてグループ毎に発表しました。

【参加国・人数】ASEAN10 か国、東ティモール 合計 129 名

（ブルネイ 12 名、カンボジア 12 名、インドネシア 12 名、ラオス 12 名、マレーシア 12 名、ミャンマー 12 名、フィリピン 10 名、シンガポール 12 名、タイ 11 名、東ティモール 12 名、ベトナム 12 名 ※アルファベット順）

【訪問地】東京都、京都府、愛知県、大阪府、宮城県

*本年度の「日 ASEAN 学生会議」は、東京大学の学生を中心に組織される NPO 法人「MIS（Multilateral Interaction with Students）」の協力を得て実施されました。

2. 日程

テーマ			A：観光公害と持続可能な観光開発	B：外国人労働者	C：質の高い教育	D：食品ロス	E：防災意識	
参加人数 地方訪問都市			海外：28名，日本：2名 京都	海外：22名，日本：3名 愛知	海外：30名，日本：1名 京都	海外：22名，日本：1名 大阪	海外：27名，日本：2名 宮城	
0	2/8	Sat	PM	来日				
			AM					
1	2/9	Sun		＜全体オリエンテーション＞				
			PM	＜基調講演＞ 東京大学未来ビジョン研究センター ＜アイスブレイク・イントロダクション＞				
2	2/10	Mon	AM	＜ワークショップ＞ 立教大学 観光学部 観光学科 助教	＜講義＞ 株式会社グローバルパワー	＜ワークショップ＞	＜講義＞ 一般社団法人フードサルベージ	＜視察（日本文化理解）＞ 浅草寺・仲見世
			PM	＜講義＞ UNWTO駐日事務所 ＜視察（日本文化理解）＞ 東京タワー	＜ワークショップ＞	＜講義＞ 文部科学省 ＜ワークショップ＞ 法政大学 人間環境学部 准教授	＜講義＞ 農林水産省 ＜ワークショップ＞ 千葉商科大学 名誉教授	
3	2/11	Tue	AM	＜講義＞ 株式会社JTB総合研究所 ＜講義＞ NPO法人エコツーリズムセンター	＜視察（日本文化理解）＞ 江戸東京博物館 浅草寺・仲見世	＜視察（日本文化理解）＞ 浅草寺・仲見世 ＜ワークショップ＞	＜講義＞ 株式会社コックキング	＜講義＞ NPO法人日本防災環境
			PM	＜ワークショップ＞ 高崎経済大学 地域政策学部 観光政策学科 准教授	＜講義＞ 東海大学 教養学部 人間環境学科 社会環境課程 准教授	＜講義＞ 特別認定NPO法人 e-Education	＜視察（日本文化理解）＞ 浅草寺・仲見世 江戸東京博物館	＜ワークショップ＞ ＜講義＞ 県ドリームハイツ自主防災隊
4	2/12	Wed	AM	＜講義＞ パソナグループ	＜講義＞ 出入国在留管理庁	＜視察（日本文化理解）＞ 東京タワー	＜講義＞ プラネット・テーブル株式会社	＜視察＞ そなエリア
			PM	＜ワークショップ＞ 帝京大学 経済学部 観光経営学科 准教授 ＜視察（日本文化理解）＞ 浅草寺・仲見世	＜講義＞ ライター ＜講義＞ ニッセイ基礎研究所	＜講義＞ 株式会社 Vent ＜ワークショップ＞	＜講義＞ 東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授 ＜ワークショップ＞	
5	2/13	Thu	AM	＜移動＞ 東京～京都	＜移動＞ 東京～名古屋	＜移動＞ 東京～京都	＜移動＞ 東京～新大阪	＜移動＞ 東京～仙台
			PM	＜講義＞ 京都市観光MICE推進室 ＜視察（日本文化理解）＞ 二条城	＜視察（日本文化理解）＞ 名古屋城 トヨタ産業技術記念館	＜視察（日本文化理解）＞ 清水寺 ＜講義＞ 京都市立堀川高等学校	＜視察（日本文化理解）＞ 大阪城 大阪企業家ミュージアム	＜視察（日本文化理解）＞ 松島遊覧船 瑞巖寺
6	2/14	Fri	AM	＜ワークショップ＞	＜講義＞ NPO法人ABT豊橋ブラシル協会	＜視察（日本文化理解）＞ 金閣寺	＜視察＞ 大阪いずみ市民生活協同組合	＜講義＞ 復興まちづくり情報交流館中央館
			PM	＜講義＞ COS KYOTO株式会社 ＜視察＞ 株式会社川島織物セルコン ＜ワークショップ＞	＜視察＞ トヨタ自動車工場見学	＜講義＞ 京都大学 地域連携教育研究推進ユニット 特任助教 ＜ワークショップ＞	＜講義＞ NPO法人日本もったいない食品 センター ＜視察＞ ecoeat 玉川店 ＜ワークショップ＞	＜視察＞ 公益社団法人3.11みらいサポート
7	2/15	Sat	AM	＜視察（日本文化理解）＞ 金閣寺・清水寺	＜視察＞ 保見回地見学 （NPO法人保見ヶ丘国際交流セ ンターによるガイド付き）	＜講義＞ 京都大学大学院 教育研究科 グローバル教育展開オフィス室 教授	＜ワークショップ＞	＜講義＞ 仙台市連合町内会長協議会
			PM	＜移動＞ 京都～東京	＜移動＞ 名古屋～東京 ＜ワークショップ＞	＜移動＞ 京都～東京	＜移動＞ 新大阪～東京	＜移動＞ 仙台～東京
8	2/16	Sun	AM	＜視察（日本文化理解）＞ 江戸東京博物館	＜視察（日本文化理解）＞ 東京タワー	＜中間発表準備＞	＜中間発表準備＞	＜視察（日本文化理解）＞ 江戸東京博物館
			PM	＜中間発表会＞ ＜最終報告会準備＞	＜中間発表会＞ ＜最終報告会準備＞	＜中間発表会＞ ＜最終報告会準備＞	＜中間発表会＞ ＜最終報告会準備＞	＜中間発表会＞ ＜最終報告会準備＞
9	2/17	Mon	AM	＜表敬訪問＞ 外務省 中山 展宏 外務大臣政務官 ＜最終報告会準備＞				
			PM	＜最終報告会＞ ＜講演＞ 東京大学大学院 法学政治学研究所 教授 ＜歓送会＞				
10	2/18	Tue	AM PM	離日				

3. プログラム記録写真

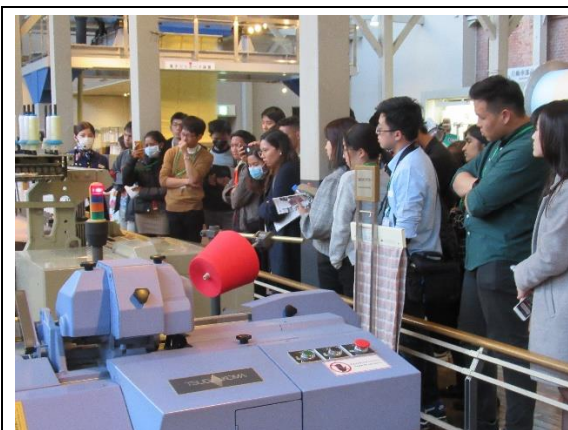
【グループ A：観光公害と持続可能な観光開発】

	
2月9日【オリエンテーション】	2月10日【講義】 UNWTO 駐日事務所
	
2月11日【講義】 株式会社 JTB 総合研究所	2月12日【講義】 パソナグループ
	
2月13日【講義】 京都市観光 MICE 推進室	2月14日【視察】 株式会社川島織物セルコン

	
2月15日【視察】 清水寺	2月16日【中間発表会】

【グループB：外国人労働者】

	
2月9日【基調講演】 東京大学未来ビジョン研究センター	2月10日【講義】 株式会社グローバルパワー
	
2月11日【視察】 浅草寺・仲見世	2月12日【講義】 出入国在留管理庁



2月13日【視察】
トヨタ産業技術記念館



2月14日【講義】
NPO 法人 ABT 豊橋ブラジル協会



2月15日【視察】
保見団地



2月16日【視察】
東京タワー

【グループC：質の高い教育】



2月9日【アイスブレイク】



2月10日【講義】
文部科学省



2月11日【講義】
特例認定 NPO 法人 e-Education



2月12日【講義】
株式会社 Vent



2月13日【視察】
清水寺



2月14日【ワークショップ】



2月15日【講義】
京都大学大学院 教授



2月16日【中間発表会】

【グループD：食品ロス】



2月9日【イントロダクション】



2月10日【講義】
農林水産省



2月11日【講義】
株式会社コークッキング



2月12日【講義】
東京大学大学院 准教授



2月13日【視察】
大阪企業家ミュージアム



2月14日【視察】
大阪いずみ市民生活協同組合



2月15日【ワークショップ】



2月16日【中間発表会】

【グループE：防災意識】



2月9日【オリエンテーション】



2月10日【ワークショップ】



2月11日【視察】
県ドリームハイツ自主防災隊



2月12日【視察】
そなエリア

	
2月13日【視察】 松島	2月14日【視察】 公益社団法人 3.11 未来サポート
	
2月15日【講義】 仙台市連合町内会長協議会	2月16日【視察】 江戸東京博物館

【全グループ】


2月17日【表敬訪問】外務省 中山 展宏 外務大臣政務官 https://www.mofa.go.jp/mofaj/page3_002807.html

	
2月17日 【最終報告会】	2月17日 【歓送会】

4. 参加者の感想（抜粋）

【グループ A：観光公害と持続可能な観光開発】

◆ ブルネイ学生

日本は自国に比べてとても発展していて、私が今後自国でどのように行動すべきか、将来の参考にしたいと思いました。将来の姿を知ることによって準備ができるからです。もし私が自国で大きなプロジェクトを指導し、提案する機会が与えられた際には、観光産業を強化したいと思います。エピデミックや財政破綻、自然災害、戦争など、観光業の発展を阻害するような制御できない事案が起こらないと良いと思います。

◆ ラオス学生

始めはこのような会議に参加するのは緊張して怖かったのですが、参加してみると、参加者がみなフレンドリーで、問題があるといつも助けてくれたのでとてもリラックスして楽しめました。帰国後は、自国の人々の意識を高めるようなイベントや講義を実施できるよう、他の組織と協力し、持続可能な観光を推進したいと思います。

◆ ベトナム学生

JENESYS プログラムに参加して、私が考えていた持続可能な観光のコンセプトや知識が変わり、視野が広がりました。参加者は各国のいろいろなバックグラウンドを持った人たちで、その人たちと議論することでとても興味深いトピックについて、違ったアプローチや視点を持つことができました。このプログラムに参加し、日本に関する知識や理解が広がりました。私は日本の寺院がとても気に入ったので、またいつか日本を訪れたいと思います。

【グループ B：外国人労働者】

◆ マレーシア学生

各国からの参加者だけでなく、事務局スタッフやファシリテーターからも多くのこ

とを学びました。SNS を通じてテクノロジーを活用することで、お互いの意見を交換し、各国の友達と常につながっていたいと思います。日本人の礼儀正しさや時間の正確さは本当に素晴らしくとても感動しました。JENESYS で得た知識を自国の友人達と共有し、私たちの小さな活動が社会の外国人労働者に対する認識に対して大きな変化をもたらすことを信じています。

◆ シンガポール学生

この会議に参加する前は、日本における外国人労働者の課題（労働力不足など）について明確な意見を持っていませんでした。シンガポールでは真逆の問題（労働力の過剰）が存在します。なので、日本での外国人労働者問題について、より良い解決方法を考えることは簡単ではありませんでした。日本とシンガポールは、人々の生活や生活の速度が速い点など、類似点があります。これについては、速い速度についていくことができない人たちも一定数いることから、ネガティブな要素でもありますが、私は、人々により効率的で生産性の高い生活を動機づけるというポジティブな見方をしています。シンガポールに帰国後は、日本の発展について学んだことのみならず、この素晴らしい経験や日本の文化、生活習慣についての知識を周囲の人へ共有したいと思います。

◆ ベトナム学生

JENESYS 2019 は私が今までに参加したことのある中で最も良いプログラムの1つです。JENESYS プログラムの最初から最後まで、たくさんの驚きがありました。ミックスカルチャーや ASEAN 諸国、特に日本の文化を理解するよい機会となりました。ASEAN 加盟国の中のどこかの国で将来キャリアを積みたいと考えている私にとって、この経験は就職先を考えるのにとっても役立ちました。何人かの友人達と情報交換をすることにより、雇用の市場状況をすぐに知ることができました。日本は先進国ですが、ベトナムはまだ発展途上国です。2 国間には強い協力関係があり、日本はベトナムに巨額の ODA や直接投資をしています。しかし、人口統計学的には、人口、労働生産人口、ワーキングスタイル、経済状況、国際感覚、外国人労働者に対する認識など、様々な違いがあります。プログラム終了後は、JENESYS 参加者の代表の一人として、今後のプログラム促進をサポートし、ベトナムの学生が JENESYS について知ることができるように努めたいと思います。

【グループ C：質の高い教育】

◆ カンボジア学生

東南アジア諸国から多くの活動的な若者が参加する、素晴らしく啓発的なこのようなプログラムに参加することができたことに感謝します。さらに素晴らしかったのは、日本の代表的な観光地を訪問し、様々な属性を持った若者たちとたくさんの忘れられない思い出をつくることができ、また、様々な国における質の高い教育、特に日本の教育システムに関する新しい知識を得ることができたことです。私は良き教育者になるとともに、教育に情熱と意志を持った若者たちと一緒に、カンボジアの教育シ

システムの発展を支援することに協力し、活動的でありたいと思います。

◆ **ラオス学生**

JENESYS2019 の学生会議に参加することができて、とても感動し、思い出深く、たくさんの刺激を受けました。在ラオス日本国大使館からこの貴重なチャンスをいただいたおかげで、この会議とワークショップに参加し、今までの自分の人生の中での居心地の良い場所から抜け出すことができました。今自分たちが向き合っている課題、特に教育について自分の考えを共有し、そして、多くの友人たちとこの問題について議論しました。私の生活の中で実践できる新しいアイデアを得ることができただけでなく、ASEAN 諸国の友人とのコネクションや、日本という心強いパートナーを得ることができました。私たちが知っているように、今は教育を変える力のない私たちでも、つながることで、いつか将来、家族や社会に対して影響力を持ち、それらを変えることができると思います。さらに、日本の文化に触れ、たくさんの場所を訪問することができ、人生においてとても感動的で思い出に残る幸せな時間でした。いつか日本で修士号を取得するために留学できるよう、奨学金に応募することを約束します！

◆ **ミャンマー学生**

住み心地のよい国（とくに古都、京都）で、日本語と日本文化を学ぶこと、自国で卒業後、日本に留学して勉強を続けることを考えています。現在、ミャンマーの教育システムは過渡期にあるので、JENESYS プログラムで学んだ日本や他の東南アジアの教育システムを自分の国や地域の人々に共有し、一人の学生の役割として、私たちの教育を改善するために一緒に良い政策を考えたいと思います。

【グループD：食品ロス】

◆ **インドネシア学生**

JENESYS2019 は、日本や ASEAN 加盟国、東ティモールの学生との交流を通じて、人と人のつながりを強化するプログラムだと思います。このプログラムを通じて、自分と自分の周りの人々をより深く理解し、違った文化に触れることを期待していました。JENESYS2019 の参加者と今後も長くつながり、積極的にインドネシアと日本の独自の文化を奨励したいです。JENESYS2019 での経験を自分の学校のすべての学生に向けて発信し、外国に行くことや日本がいかに美しいかを知ることについて動機づけたいと思います。プログラム期間中は、このプログラムの終了後にどのような新しい取組をすべきか、ASEAN 諸国や日本の代表学生たちと議論しました。私は、このプログラムの重要な目的は、ASEAN 諸国と日本の学生、若者のプラットフォームとなり、人的つながり、協力関係を強化するために、実用的な思考や施策について考えを共有し意見交換するだけでなく、既存のプログラムの強化と様々な戦略を実行することで、経済力強化活動や若者のリーダーシップ能力を強化することだと思います。今後、ASEAN 諸国と日本で新しいプログラムや取組が実施されることを楽しみにしています。私たちはみんな、それぞれの国の未来の希望です。より良い

世界のために協力していきたいと思います。

◆ **フィリピン学生**

この経験は、とても思い出深く忘れられないものとなりました。私の中で、経験とチャンスのマイルージとなったと思います。このプログラムに参加することができ、日本人の親切さや寛容さに触れ、ASEAN 各国との懸け橋となれたことを大変嬉しく思います。このような人生を変える機会をくださった日本の皆様に感謝してもしきれません。このプログラムに参加して、私たちには、社会を再構築し、関係を強化して、インクルーシブな社会を推進できるという希望があることに気づくことができました。

◆ **シンガポール学生**

この経験は、とても有意義で今後の宝物になると思います。この機会を与えてくださった、すべての日本人の親切さとホスピタリティーに感謝の気持ちでいっぱいです。今後は、議論した課題や、アイデア、解決策を自国で共有したいと思います。シンガポールと日本は多くの共通点があることに気づいたので、日本の技術的進歩をシンガポールでも取り入れることができると思いました。ありがとうございます！

【グループ E：防災意識】

◆ **フィリピン学生**

日本は素晴らしい国で、科学の進歩、美しい場所や景色、親切な人々や食文化を含め、とても尊敬しています。また、もし機会があれば日本で教育を受けてみたいと思いました。私は、災害時に対しては、日本でも建造物の崩壊や人の命を奪った東日本大震災の被害があったことから、フィリピンだけでなくどの国にも強みと弱みがあり完璧ではないと気づきました。東日本大震災で彼らが受けた被害の話を聞いてとても悲しくなりましたが、厳しい状況の中で前向きに取り組む姿勢に安心しました。私は日本が大好きなので、また訪問できることを楽しみにしています。

◆ **タイ学生**

JENESYS2019 に参加して、本当にやりたいことは若者の力でもできるということを実感しました。国や地域を少しでも変えるために、日本と ASEAN 加盟国が協力関係を構築することはとても重要です。それは、問題解決のための計画をみんなで実行し、みんなで計画に取り組むことが重要だからです。そして、この分野で実際に働いている方とお会いした機会や、専門家から直接話を聞いた様々な経験や知識を忘れないようにしたいです。このプログラムで学んだすべてのことを、生涯大事にします。このような機会に感謝します。

◆ **東ティモール学生**

日本は気候や食べ物など自国とはとても違いましたが、災害や減災について理解することができ、このプログラムは私にとってとても魅力的でした。日本や日本人、日

本の気候、特に減災について、東ティモールの人々にこの経験を伝えたいと思いました。私の国は災害が起こりやすいので、防災問題を解決するための様々な方法を学ぶことができました。帰国後、東ティモールの友人たちとボランティアのプログラムを作り、自国の災害と向き合うための減災教育を広めたいと思います。

5. 受け入れ側の感想（抜粋）

◆ 講師（グループ A）

地球規模の課題解決をテーマに、ユース世代が国際交流しながらアイデアを創造する機会は大変貴重だと思います。また、実際に課題の現場に赴き、住民に話を聞く中で五感や肌で感じたことからインスピレーションを得て、アイデアを出すプロセスが素晴らしいと思います。参加者たちも、とても真剣にサステナブルツーリズムについて学習・探求し、実務的なアイデアを出していたと思います。サーキュラーエコノミーについての関心の高まりを肌で感じるようになりました。

◆ 講師（グループ B）

これからの将来を担う日本と ASEAN の学生が、単に交流を深めるだけでなく、互いに関心を寄せるテーマについて、講義や現地視察を通じて、広く・深く理解を深め、課題・問題を掘り下げ、ディスカッションを重ねることによって論点を明確にし、学生ならではの提案をつくりあげ発表するという本プログラムは、対日理解促進のみならず、日本と ASEAN の相互理解を深める意味でも、極めて貴重な意義ある機会であると思料します。講義では、質疑応答を重ねるごとに理解が深まり、論点が明確になっていくように感じられました。後日学生から届いた御礼のメールには、講義の中で言及した概念について、最終発表会の資料作成時に論点になったことなども記述されており、熱心に取り組む学生の姿勢が感じられました。最終報告会では、学生ならではの視点、新鮮な意見が含まれた考察・提言もあり、素晴らしい内容であったと感じました。

◆ 講師（グループ C）

日本や ASEAN 諸国の若手リーダーを育成するという意味で非常に有意義な取り組みだと思います。参加者たちにも、真摯に授業や討議に参加して頂き感謝しています。

◆ 視察先関係者（グループ D）

11 か国から、30 名ほどの学生の方々に見学していただくことができ、良かったと思います。見学いただいたような「食品リサイクル・ループ」などの仕組みにより、生ごみも有効に活用して環境に負荷を与えず、なおかつ障がい者の雇用促進も可能なのだということを知っていただくことに意義があったと思います。とにかく参加者には、いきいきと積極的に見学いただいたので良かったと思います。色々と質問もいただきました。

◆ 講師（グループ E）

日程の最初の段階で全般的な内容について、中間に東北等の現地視察という流れは良いと思います。学生たちは一様に熱心にメモを取り、予想以上に多くの質問がありました。帰国後はそれぞれの国において、何らかの活躍が見られるものと思料します。

6. 参加者の対外発信

 UTokyo. is at The University of Tokyo / ... 1 min · Bunkyo · 🌐 Today lecture by Mr. Jack KUMADA currently he is a Executive Director Global Tourism Agenda. He was the Senior Officer at United Nation World Tourism Organisation as first Japanese official. He was lectured about Tourism Sustainability. I am glad that In the lectured he mentioned one slogan from Cambodia < Refilled No Landfill >. #JENERSYS2019 #JapanASEANstudentsconference	It's Day 4. Received lots of knowledge on the tourism industry, specifically sustainable tourism by tourism experts. This presentation by us is about our definition on sustainable tourism before and after attending several lectures in this conference and whatever we understand from the socio-cultural, environment and the economic aspects of it. #JENERSYS2019   Like Comment Share and 2 others
（グループ A：カンボジア学生） 今日は、現在株式会社 JTB 総合研究所グローバルツーリズム分野の主席研究員の講義がありました。彼は UNWTO で上級高官になった最初の日本人でした。講義は持続可能な観光についてでした。講義の中でカンボジアのスローガンである《Refill No Landfill》に言及されたのを聞けて嬉しく思いました。	（グループ A：マレーシア学生） 4 日目。観光産業、とくに持続可能な観光について専門家から多くの知識を得ることができた。私たちのプレゼンは、この会議に参加する前後の持続可能な観光の定義についてと、その社会文化、環境や経済の側面から理解したことについて発表しました。

#Day6

Today we have been visited NPO ABT Toyahashi Brazil

Association and TOYOTA Factory 🇯🇵🇧🇷

We really surprised when we have visited TOYOTA Factory because we can see how wonderful of their technology to make a car 🚗🚙. In the world 🌐 they know already that Japan is very high technology and high quality. I hope that my country will be improving of technology like Japan country also 🇯🇵🇧🇷. Especially, I love the status of TOYOTA said Good Products Come from Good Thinking 🤔👍

#JENESYS2019

#JapanASEANstudentsconference



(グループ B : カンボジア学生)

今日は NPO 豊橋ブラジル協会とトヨタ工場を訪問しました。トヨタ工場では、車の製造の最先端技術のすばらしさに驚きました。世界では多くの方が日本の先端技術と高品質について知っています。我が国も早く日本のように発展するよう願っています。特にトヨタの“Good Products Come from Good Thinking”という言葉が好きです。

Today we have visited the Homi Danchi housing estate which is tucked in a corner of the Aichi Prefecture city of Toyota. Before my visit to this place, I studied on the inhabitants in this estate. And they were mostly of local Japanese and Japanese-Brazilians. The influx of Japanese-Brazilians immigrants had created an unpleasant situation and Japanese seemed to be reluctant to accept them due to their practices such as cars parked illegally and rubbish dumped everywhere. Hence, discrimination and disrespectful behaviours have led many issues. In this case, it reminded me on problems that are happening in Malaysia especially on racial issues. Thus, a sense of compassion and tolerance are extremely vital to sustain a mutual understanding that will eventually lead to a better living environment.

In the evening, we had workshop to polish for our mid-term and final presentation very soon. Through this activity, various ideas from different countries such as Singapore, Myanmar and Vietnam have helped me to broaden my perspectives on issues faced by immigrant workers.

#JENESYS2019

#JapanASEANStudentsConference



(グループ B : マレーシア学生)

今日は愛知県の豊田市にある保見団地を訪問しました。ここに来る前に、この場所の住民はほとんどが日本の地方出身者と日系ブラジル人であると勉強しました。日系ブラジル人の移民の流入による車の不法駐車やゴミのポイ捨てなどの悪習慣など、日本人にとってあまり心地の良いものではなく、差別やマナー違反などの問題を引き起こします。マレーシアでも特に人種問題など、同様の問題があることを思い出しました。より良い住環境のためには、思いやりと寛容さをもって相互理解をすることが非常に重要です。夜には、この後の最終プレゼンの準備をしました。この活動を通じて、シンガポール、ミャンマー、ベトナムといった国それぞれの意見を聞き、外国人労働者に関する課題について、自身の考えを広げることができたと思います。



(グループ C : ベトナム学生)

素晴らしい日でした！京都大学教授の講義は、今私がベトナムの大学で勉強している内容だったのでとても刺激を受けました。試験システムの標準化は世界中で、とくに途上国の教育システムに大きな（良いものばかりではない）インパクトをもたらしています。

そして新幹線で東京に戻り、新宿と秋葉原で美しい夕焼けの景色をみることができました。



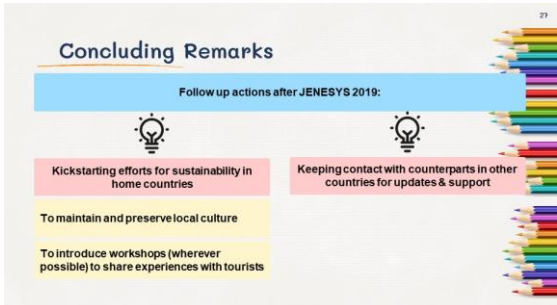
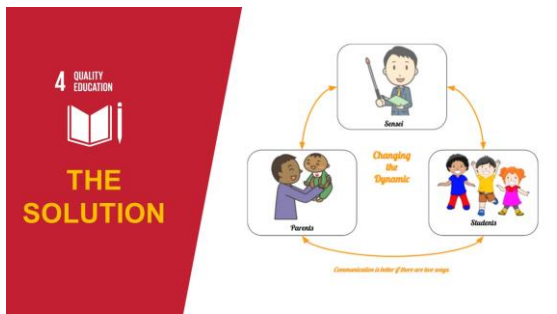
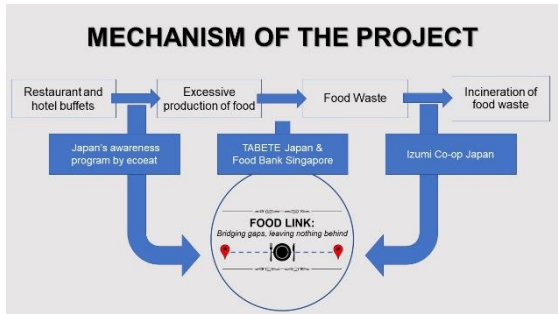
(グループ C : シンガポール学生)

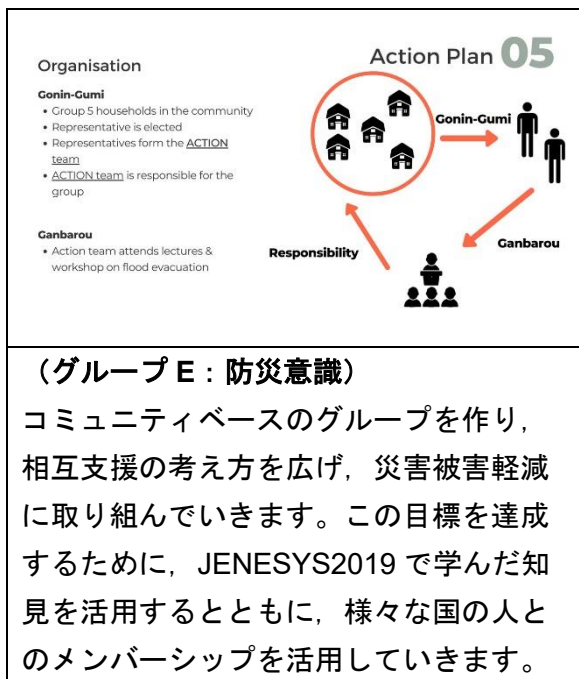
中間発表のプレゼン。全員が集合し、教育をめぐる様々な課題の解決方法にたどり着いたことは、とても素晴らしい経験でした。すべての講義と中身の濃い議論に感謝しています。それは、これまでのシンガポールでの経験値を超えて、多くの課題について気づきをもたらしてくれました。正直、すべてのプログラムがもうすぐ終わってしまうと思うととても悲しいです。

 1 min · 🌐 Day6 in OSAKA It's an hour bus-ride to the Izumi city from Osaka and then we move to economic farm. After we have eaten our lunch on the bus, we go to listen to the lecture of Hiroshi Kozu San. He is very talented and his explanation is very clear and so I think getting the chance to listen to his lecture is very lucky. #JENESYS2019 #JapanASEANStudentConference  Like Comment Share	 2 mins · 🌐 added 8 new photos. Day 5 ===== We went to Osaka from Tokyo by Shinkansen and paid a visit to Osaka Castle to study history of Japanese people. After that, we went to "The Entrepreneurial Museum and Innovation" to learn about Osaka's historical entrepreneurs' innovative solutions and wisdom. (which is a place you should not miss if you got to Osaka). Though it's a tiring day, it ends with a flavorful dinner #JENESYS2019 #JapanASEANStudentConference 
(グループ D : ミャンマー学生) 大阪からいずみ市まで、バスに1時間乗って農園に移動しました。バスの中で昼食を食べ、高津氏の講義を聞きました。彼はとても才能があり、彼の話はとても明確で、彼の講義を聞いたことはとても幸運だったと思います。	(グループ D : ミャンマー学生) 東京から大阪まで新幹線で移動し、大阪城で日本の歴史について学びました。その後、大阪企業家ミュージアムで、大阪の歴代の企業家の革新的な考えや英知について学びました (ここは大阪に行ったら必ず行くべき)。とても疲れましたが、とても素晴らしい夕食で一日が終わりました。

Bay. is at Matsushima ... 2 mins • Sendai • 🌐 We are here in Matsushima Bay, one of the affected areas during the deadliest 9.0 magnitude earthquake in 2011. The earthquake generated tsunami with more than 30 meters wave height which caused almost 20,000 deaths and missing in Japan. In the Philippines, the strongest earthquake we experienced was in 1976 with 7.9 magnitude which caused almost 3,000 casualties. #JENESYS2019 #JapanASEANStudentsConference	2 mins • 🌐 2020.02.16 @ Edo Tokyo Museum [Observation] This Museum are looking back on the history and culture of Edo-Tokyo. In a unique building modeled on a raised-floor-style storehouse, the permanent exhibition shows 400 years of history and life cultures, from Edo period to the present day, using replicas and variety of authentic items. #jenesys2019 #japanaseanstudentsconference
(グループ E : フィリピン学生) 私たちは今松島湾に来ています。2011年、M9.0の大地震で最大の悲劇を受けた場所の1つです。日本の地震は30m以上の津波を引き起こし、約20,000人の人命を奪いました。フィリピンでは、1976年のM7.9の最大の地震により、3,000人の犠牲者を出しました。	(グループ E : マレーシア学生) この博物館では、江戸 - 東京の歴史と文化を振り返ることができます。独特の建築、上げ床スタイルの家屋で、常設展では、江戸時代から現代までの400年の歴史と生活文化に関するレプリカや様々な実物を展示しています。

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	
(グループ A：観光公害と持続可能な観光開発) 持続可能な観光に関わる問題を様々なステークホルダーに整理してそれぞれの解決策を考え、特に旅行会社と若い世代に着目しました。一つ目の解決策が田舎や人気のない地域を売り込み、特定地域に集中しがちな観光客の旅程を変えるもので、二つ目の解決策が観光についての地域の組合活動やインターンなどの実践活動を通して、若い世代の持続可能な観光についての意識を高めるものです。	(グループ B：外国人労働者) #ASEANFWMONTH というハッシュタグを利用した SNS キャンペーンによって外国人労働者に対する否定的な見方を解消します。運動の影響力を高めるために、JENESYS プログラムを通じて培われた国際的なネットワークを最大限に活用します。
	
(グループ C：質の高い教育) 教育のステークホルダーである教師、保護者、生徒の3者のコミュニケーションを充実させるプロジェクトを実行します。この活動を通じて、無関心のサイクルを断ち切り、教育の未来を先導したいと考えています。	(グループ D：食品ロス) 食品ロス削減、特にビュッフェタイプのレストランの食品ロス削減について議論しました。3つの解決策によってこの問題に取り組もうと考えました。1点目はレストランにマニュアルを用意して余分な供給を減らすというものです。2点目はTABETEにみられるように食べ残しを保管して必要な人に還元するサービスを運営すること、3点目に食用として使えない場合にはいずみコープにみられるような肥料への変換を行うことで食品ロスの削減につなげようと考えました。



事業実施団体：株式会社 JTB